

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

・プロポーザル&リース方式による庁舎建設事例

2 取組期間

・平成 26 年度～（継続中）

3 取組概要

・新庁舎等建設について、経済的及び効率的に整備を行うために、設計・施工後、事業期間中において本施設の維持管理（一部）を実施する方式（リース方式）により、公募型プロポーザルを実施し、施工業者を選定する。

4 背景・目的

・現庁舎は昭和 5 年 6 月に建設され、その後、時代の環境変化や社会変化に対応して幾度の増改築及び簡易な維持補修を行い現在に至り老朽化も著しい状況です。また、本庁舎は狭隘であるため役場分室、教育委員会と別棟となっており業務効率が悪く更に、災害時の災害対策本部としての機能確保が困難な状況であり、昨今の自然災害及び今後の原子力発電所稼働に伴う原子力災害に対応すべく、早急な新庁舎建設が必要となった。

5 取組の具体的内容

<取組実績>

- ・平成26年 7月 プロジェクトチーム（PT）結成
第1回PT会議（ふるさと財団アドバイザーによるPFI検討）
- ・平成26年 9月 第2回PT会議（PFIを協議検討）
10月 第3回PT会議（大和リースによるプレゼン）
11月 第4回PT会議（日立キャピタルによるプレゼン）
- ・平成27年 1月 第5回PT会議（リース方式に決定し今後の事業計画を検討）
3月 先例地視察（宮城県松島町庁舎）
4月 第6回PT会議（視察結果まとめ今後の方策）
- ・平成28年 5月 新庁舎検討委員会及び作業部会結成（基本計画検討）
5月～9月 検討委員会及び作業部会（基本計画検討）
8月 基本計画を町議会へ報告
10月 プロポーザル実施
12月 プレゼンテーション実施
- ・平成29年 1月 施工業者決定
5月 事業着手
- ・平成30年 8月末 完成引渡し予定
9月末 供用開始予定

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

・財政的に厳しい中で新庁舎建設が可能な方法を検討し、全国の実例を参考に当町にあった方法で財政負担を軽減し、効率的に短期間で庁舎建設が進むよう検討を重ねた。

- ①経費の平準化（リース方式） ②構造の見直し（RC造からS造）
- ③工期の短縮（プロポーザルによる一括発注）

7 取組の効果・費用

・建設方法を検討していく中で、当町で事業実施が可能なリース方式を選択し基本設計や実施設計といった中間業務をプロポーザルにより省くことで、設計費や施工管理費等の中間マージンを削減する事が出来た。また、業務を一括発注する事で工期も大幅に短縮でき早い段階で、新庁舎での執務が可能となった。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・財源確保が厳しい中、限られた予算の中でどのように事業を進めて行くか計画策定に苦慮した。
- ・プロポーザルによる入札実施だったので、基本計画を策定するのに苦慮した。

9 今後の予定・構想

- ・なし

10 他団体へのアドバイス

- ・財政的に厳しい状況下でも、リース方式（譲渡特約付賃貸借契約）にすることで単年度の財政負担が軽減されるので事業を実施する事ができる。
（リース期間は、10年・15年・20年と選択可能）

11 取組について記載したホームページ

- ・なし